

18 軽騎兵隊の生き残り

かたや 大英帝国の威力を誇らしげに語る三千万人のイングランド人がいた
こなた 眠るに寝床もない二十名ばかりのはぐれ小隊がいた
兵糧ひょうろうもなく金もなく これといった軍役もなければ 生業なりわいもない
だらしのない兵隊ばかり それがあの軽騎兵隊の生き残り

人の命ははかないものと知ってはいたが 永遠のゲイジュツなんて縁がない 5
飢えて死ぬとは分かっていたが あの不滅の唄ではどっこい生きている
飢えないために欲しいのは わずかばかりの施しだけだ
三千万のイングランド人が彼らのために集めたのは たったの二十と四ポンド

裂傷の痕痛々しい 皺だらけの 白髪交じりの頭を並べてごろ寝する
ロシア兵のサーベルは鋭かったが 今この飢餓はその刃より鋭い 10
老隊長はつぶやいた 「あんなことを書いたやつのところへ行こうじゃないか
学校で餓鬼どもが歌う あのバラクラバのことを書いたやつのところへ」

楽隊もなければ軍旗もない 十列ちょっとの小隊は 進んでいった
あの唄でこんな敗残兵を ほめちぎった 詩人先生とやらを探しに
やつの召使の口上を 敗残兵たちは庭の入り口のところで待つ 15
わびしい 小さな人間の群 あの軽騎兵隊の生き残り

隊員たちは 苦役で曲がった背を伸ばし 気を付けの姿勢をとろうと努めた
腹ペコで歩かされ 乱れた隊列はさらに乱れる
疲れた肩をだらりと落とし ぼろぼろにすり切れた軍服で
詩人の前によるよる進む 彼ら敗残兵たち 20

老隊長が代表し 「失礼ながら」と切り出した
「先生様があの唄を書かれたのでありますか われらその死にぞこないであります
地獄の口と先生様が書かれたこと まっことその通りでありました
貧民院行き寸前のわれら一同 訴えたく参上いたしました

「いえ食べ物はありません 先生様 それよりも書いていただけませんか 25

戦闘場面のところで「続く」とか「次頁参照」とか
だれかの過失かとは思いますが どんな過失だったか書いてはいただけないでしょうか
先生様は自分たちを英雄だと書いてくださいました 今は腹ペコと書いてください」

哀れこの小隊 足を引きずり やせ細り 見捨てられて立ち去った
そこでかの大詩人先生は ご自慢の「坊主憎けりゃ袈裟まで」の徹底ぶりで 30
大地を焼き払う野火のような素晴らしい唄を書いたげな
やがてイングランドのメタボ野郎は 「恥を知れ」と罵声の狼煙^{のろし}をあげたげな

ああ 三千万のイングランド人は 大英帝国の威力と駄ボラを吹く
だが見よ わずか二十名ばかりの英雄には今宵一夜の糧^{かて}とて無いのだ
小さな孫たちは 「讃えよ その突撃を」とまわらぬ舌で歌うだけ 35
軽騎兵隊の最後のお勤めは 路上をさまよい 貧民院への突撃だ

(柗井幹生訳)